

表1 指導者のための集団随伴性実施チェックリスト（涌井，2006；字句を一部改変）

	項目	チェック欄
セッティング要因に関する事項	1. 対象児の数的処理能力のアセスメントを行ったか。	
	2. 対象児のソーシャルスキルや協同・協働スキルのアセスメントを行ったか。	
	3. 対象児にソーシャルスキルや協同・協働スキルのレポーターがない場合、協同学習実施前に短期トレーニングを行ったか。	
	4. 指導中にソーシャルスキルや協同・協働スキルのおさらいをすることを指導手続きに入れたか。	
	5. 指導場面は、ソーシャルスキルや協同・協働スキルの遂行が想定される場面が頻出する文脈になっているか。	
先行刺激に関する事項	6. 仲間の標的行動の遂行状況のフィードバックを指導手続きに入れたか。	
	7. 仲間の標的行動の遂行状況をフィードバックするために、仲間モニタリング（他者評価）手続きは利用できるか。	
	8. 強化の随伴単位を縮小し、被援助者を限定したか。	
	9. ソーシャルスキルや協同・協働スキルの遂行が想定される場面の構造化を行ったか。	
	10. 標的行動の評価表を対象集団に合わせて簡素化したか。	
結果・強化に関する事項	11. 集団随伴性の理解に関するアセスメント（暗黙の了解事項の理解、強化子の共有関係の理解）を行ったか。	
	12. 対象集団に適合した強化基準値になっているか。	
	13. 対象集団が強化子の共有関係を理解していない場合、強化随伴単位で共有できる1つの強化子を用意したか。	
	14. 指導中、定期的に集団随伴性のアセスメントを実施することを指導計画に含めたか。	

注：標的行動とは、個々人やチームの達成目標になっている行動のことである。

出典：『発達障害児の仲間同士の相互交渉促進に関する研究—社会的スキル訓練における集団随伴性の有効性—』（著者：涌井恵，2006，風間書房）。字句の一部を改変。